

筑波大学附属図書館 学習・研究支援体系図2020

2021/4/1 更新

※「高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版」(2015年3月 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会)に準拠

学習支援：学習者の情報活用プロセスの各場面における達成要件と、その習得を支援する図書館の複数者を対象とするプログラムをレベルにより分類・配置した。 研究支援：教職員の情報活用の場面と、図書館の複数者を対象とするプログラムの対応を表した。
 ※2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により対面での講習会やセミナーの開催が困難となった。一部の講習会やセミナーはオンラインでの開催に切り替えて実施した。

学習支援						
レベル	初級		中級		上級	
	与えられたテーマ・情報源をもとにレポート等を作成できる		与えられた課題について自らテーマを設定し、先行事例を踏まえた上で自らの意見を含んだレポート等を作成・発表できる		自ら調査・研究テーマを設定し、学術的な論文等を作成・発表できる【卒論・修論レベル】	
主な対象	学群1,2年生		学群2,3,4年生		学群3,4年生、大学院修士	
情報活用行動プロセスの場面	達成要件	プログラム	達成要件	プログラム	達成要件	プログラム
0 知見を拡大する				E2-L LA企画「LAが筑波大生の質問にオンラインで答えてみた」		
1 課題を正しく認識し必要な情報の範囲を定める	□ 課題の意図を正しく理解できる		□ 課題に沿ったテーマを設定できる □ 自分が設定したテーマについて他の人に説明できる		□ 自ら調査・研究テーマを設定し、仮説を立てることができる □ 課題解決のために不足している知識や情報を把握できる	
2 課題解決のために情報探索を計画する	□ 学術情報流通のプロセス、メディアの種類や特性を説明できる □ 文献入手に関わる図書館サービスを利用できる □ 著作権法など、情報を探索する際の適法性に留意できる	A1-E 図書館PV「LIFE with LIBRARY」 A1-E 週5図書館生活どうですか？The Movie A1-E 図書館チュートリアル A1-E One Minute Tutorials	□ 調査テーマに関する先行事例の調査を行うことができる □ 信頼性の高い情報源を推測できる □ ひとつの事柄に対し、複数の情報源を確認することができる	B2-W 論文の探し方 (Webサイト・各種データベース活用法) B2-C 知の探検法 B2-C 知識情報特論 (文献の検索から入手まで)	□ 専門分野における学術情報の流れを説明できる □ 信頼性の高い情報を選択できる □ 計画の実施においてプロセスのモニタリングができる	
3 探索計画に基づき必要な情報を入力する	□ 図書館の蔵書検索ツールを利用し、指定された資料を検索できる □ 図書館の資料配置・分類法を説明できる □ 参考・引用文献リストを適切に読み取り、調査に活用できる	A1 新入生履修ガイダンス A1 新入障害学生ガイダンス A1-C フレッシュマン・セミナー A1-E 新入大学院生オリエンテーション A1-E 留学生オリエンテーション A1-E 図書館の本や雑誌の探し方	□ 課題に応じた情報源を選択できる □ 文献検索の検索語 (同義語・上位語等) や演算子 (AND・OR・NOT) を工夫し、データベースを活用できる □ 情報の出所や信頼性を点検・確認し、必要な文献を選択できる	B2-WV 論文の探し方 (各種データベース活用法)	□ 先行研究論文等の引用文献リストを利用し、計画的に探索できる □ 望ましい情報が得られなかった場合、行った検索プロセスを評価し、見直すことができる □ 他機関の図書館から文献を取り寄せるなど、図書館のサービスを必要に応じて利用できる	B3-E 研究テーマを決めるための情報とツール
4 収集した情報を批判的に分析・評価し整理・管理する	□ 学術的な文章の要旨をまとめることができる □ 情報を取捨選択し、活用できるように整理できる		□ 入手した情報の正確性・真正性と、調査テーマとの関連性を評価できる □ 過去の情報と新たに入手した情報の違いを比較できる □ 資料リストを作成し、管理できる		□ 批判的思考をもとに、入手した情報の論理性・合理性・正確性・関連性を評価・分析できる □ 文献管理ツールを使用して、収集した文献情報を活用できるように組織化できる	C3-CV 知識情報特論 (RefWorks活用法) C3-WV 文献管理ツール RefWorks活用法
5 整理した情報を批判的に検討し知識を再構造化する	□ 入手した情報、データおよび意見を比較・分類して、自らの考えと類似する点や違う点を説明できる		□ 複数の情報、データおよび意見を比較して、自らの考えとして最も相応しいものを客観的に選択できる □ 選択した情報、データおよび意見を自分の文脈で意味づけ、自分の言葉で説明できる		□ 得た情報、データおよび意見を一般的な概念として構成し、それを新たに適用することで知識として再構成できる □ 再構成した知識をもとに、自らの知識を再構造化し、自分の意見として説明できる	
6 情報を活用・発信しプロセスを振り返る	□ レポートの一般的な体裁を説明できる □ 引用と剽窃の違いを説明できる □ 情報の典拠を明示し、適切に引用できる □ 参考・引用文献リストを作成できる □ 読み手を意識してレポートをまとめることができる		□ 事実に・理論的な根拠を示しながら、問題提起に対応した主張を論理的に述べることができる □ 自らの考えを、論拠を示しながら論理的に発表できる □ 図表・音声・画像を活用できる □ 知的財産権・著作権・個人情報保護等の情報倫理に留意できる		□ 学術論文の構成に沿った文章を記述できる □ 受け取る相手に適したメディア・形式で適切に発信できる □ それぞれの発表の場に適した作法で発表を行うことができる □ 自分が発信した情報・論文を評価し、情報活用行動プロセス全体を省察する	D3-E 博士論文インターネット公表の基礎知識

研究支援	
研究・教育・大学の行政管理に際し、学術的な情報を活用することができる	
大学院博士、教職員	
情報活用場面	プログラム
利用可能な情報源、情報サービスを認識し、利用する	A-E 新任教員オリエンテーション
情報探索ツールを活用して、効率的な文献入手プロセスを実践する	
研究・学術情報のサイクルを知り、研究業績の登録、探索を行う	D3-E 博士論文インターネット公表の基礎知識
収集した情報や自著を客観的・批判的に分析・評価し、整理・管理する	C3-WV 文献管理ツール RefWorks 活用法
著作権・特許権を含む知的財産権の遵守、個人情報保護、盗用・捏造・改ざんの防止など研究倫理にのっとった研究活動を行う	
読者の立場に立った明確で堅固な主張と論理展開を持ち、適切な形式で発信する	E3-WF オンラインワークショップ「CMSを利用したデジタルアーカイブの構築」
情報活用行動プロセスを省察し、自分の発信した情報や論文を評価する	